

六		五				四		三		二		一						
に は い か が(イ) な る と し る べ く	み は す て つ こ い ろ を だ に も は こ ら さ じ つ ひ	(三) 筆者名 古典名		(二) 筆者名 古典名		(五) 安土桃山時代から江戸時代初期にかけて寛永年間を中心に活躍した三人の能書家。本阿弥光悦、近衛信尹、松花堂昭乗をいう。	(三) 点画の組み合わせ、構造のこと	(二) 漢字の成立や使用に関して説明する六つの原理(象形・指事・会意・形声・転注・仮借)のこと	(四) 萊子侯刻石	(三) こうはたんし	(六) 写	(二) 事	(三) ④	(二) ①				
		(四) 筆者名 古典名		(三) 筆者名 古典名					(四) 摩崖	(三) でっちようせう	(八) 弁	(三) 尽	(五) 鑑	(二) 心	(三) ⑤	(二) ②	(二) ①	
10点		各2点×8 (完答)				各4点×5		各1点×6 (完答)		各1点×10 (完答)		(三)各2点×6 (完答) (二)各2点×4 (完答)						
		(四) 筆者名 古典名		(三) 筆者名 古典名			(四) 二文字以上文字を続けて書くこと	(三) 原本の上に薄い紙を敷き、文字の輪郭を写し取り、墨を塗って複製したもの	(六) 運筆	(三) なすのくいのみやつひ	(九) 遠	(四) 若	(六) 堂	(五) 万	(三) ⑥	(二) ③	(二) ②	(二) ウ
		(三) 筆者名 古典名		(二) 筆者名 古典名					(三) 鍾繇	(三) 黄庭堅	(三) 黄州寒食詩巻跋	(三) 黄庭堅	(三) 直表	(三) 遠	(三) 若	(三) 堂	(三) 万	(三) ⑥

受験番号		得点 その一	82点
------	--	-----------	-----

六	10点
五	16点
四	20点

(一) 蘭亭序

(二) 王羲之

(三) えいわくねんとしてはきちゅうにあり

(四) 東晋の永和九(三五三年)王羲之は会稽山(浙江省紹興市)の麓にある蘭亭に名士四十一人を招いた。秋の儀式を行った後に、曲水の宴という詩会を催し、各自が作った詩をもとに詩集を編んだ。その詩集の序文として書かれたものが、この古典である。

(四) 7点
14点

(一) 牛楸造像記

解説

太和十九(四九五年)年、七き、息子牛楸の冥福を祈る母親がこの場所に弥勒像を造らせた。刀で鋭角的に刻された点画は視覚的に鮮烈で左右の払いを強調する。など重心を低く構えた。

解説 各5点×2

(二) 鄭羲下碑

解説

鄭道昭が父の鄭羲の功績を後世に伝えるために刻したものの。空間を包むように大回りに運筆し、点画には丸みを持たせている。字形はやや重心を低くして構えている。

古典名 各2点×2
(完答)

29点

八
各古典の用筆法の違いに気づき、表現できるようにする。

到達目標

到達目標 5点

125点

手法

まず各班4人グループにさせた後、各班に(一)と(二)のどちらかの古典を指定し、その表現に関して特徴を話し合わせる。次に別の4人グループを混成させ(一)(二)が混ざり合うように、各古典に対して意見交換させ、それぞれの古典の用筆法をワークシートに記入する。次時に個人で

手法 10点

43点

どちらか一つ古典を選び臨書し、教師は二つの古典の用筆法の違いを説明する。最後にそれぞれがもう一度臨書し、理解を深める。

受 験 番 号

得 点 その二

得 点 計

七
14点